

## 船舶事故調査報告書

平成30年5月23日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 佐藤 雄二（部会長）  
 委員 田村 兼吉  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成30年1月2日 09時20分ごろ～14時00分ごろの間）
発生場所	不明（長崎県平戸市横島西南西方沖～平戸市鐔埼 <sup>つばさ</sup> 西方の岩場の間）
事故の概要	プレジャーボート <sup>けいじゅう</sup> 佳寿丸は、流し釣り中、船長が落水して溺死した。
事故調査の経過	平成30年1月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A プレジャーボート 佳寿丸、1.5トン NS3-503775（漁船登録番号）、個人所有 7.46m(Lr)×2.25m×0.69m、FRP ディーゼル機関、52.2kW、昭和63年10月8日 第292-31245号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長A 男性 52歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年10月22日 免許証交付日 平成25年7月11日 (平成30年8月11日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長A）
損傷	船尾部船底外板に破口を伴う亀裂、舵、プロペラシャフト及びプロペラ翼の脱落、主機等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1～2、視界 良好、気温 約7～10℃ 海象：潮汐 高潮時～下げ潮の末期、水温 約17℃
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、釣りをする目的で、A船の係留場所である平戸市 <sup>たく</sup> 度島漁港の船だまりを出発した。 A船は、平成30年1月2日09時20分ごろ横島西南西方1海里（M）付近において、船長Aが甲板上で釣りをしているところを横島西方沖を北西進していた船の船長に目撃された。 横島南方沖を南東進していた船（以下「B船」という。）の船長（以

	<p>下「船長B」という。)は、13時15分ごろ船首を北北東方に向けて鰐埼西方の岩場に乗り揚げているA船を認めたので、すぐに携帯電話で平戸海上保安署に通報し、一旦B船の係留場所である平戸市田助漁港に帰った。</p> <p>船長Bは、自身が所有する喫水の浅い船に友人を乗せて船長Bの家族に操船させ、2隻でA船の元に向かった。</p> <p>A船は、船長BがA船に近づいて声を掛けたが返事がなかったので、船長Bの友人と家族が14時00分ごろA船の船内を確認したところ、無人であった。</p> <p>船長Aは、海上保安庁の船艇及び航空機、僚船等による捜索が行われ、15時25分ごろA船が乗り揚げていた場所から東方1,000m付近の海上において、仰向けで浮いている状態で発見され、病院へ搬送されたものの、死亡が確認され、溺水と検案された。</p> <p>A船は、僚船に引かれて離礁し、僚船2隻に横抱きされて度島の造船所に運ばれた。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>A船は、無人で発見された際、主機のクラッチが中立の位置に、スロットルレバーが低速の位置にあり、船尾にスパンカーを張り、右舷船尾側の舷縁に釣り竿がセットされた状態で、そのそばに自動膨張式の救命胴衣が置かれ、船室に防水型の携帯電話が置かれていた。</p> <p>船長Aは、ふだん自動膨張式の救命胴衣を着用していたが、発見された際、救命胴衣は着用していなかった。</p> <p>船長Aの家族は、船長Aに、高血圧の持病があったものの、本事故当時、自宅を出て行く際、健康状態に問題はないように見えた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長Aの死因は、溺水であった。</p> <p>A船は、1月2日09時20分ごろ横島西南西方1M付近で船長Aが甲板上で釣りをしているところを目撃された後、14時00分ごろ鰐埼西方の岩場で無人で乗り揚げているところを発見されたことから、この間において、船長Aが落水したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、A船が無人で発見された際、主機のクラッチが中立の位置に、スロットルレバーが低速の位置にあり、船尾にスパンカーを張り、舷縁に釣り竿がセットされた状態であったことから、流し釣り中に落水して溺死したものと考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、A船が、流し釣り中、船長Aが落水して溺水したことにより発生したものと考えられる。</p>

<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・救命胴衣を常時着用すること。</li><li>・防水型の携帯電話を常に身に付け、落水した際の連絡手段を確保しておくことが望ましい。</li></ul>
-----------	--

付図1 事故発生場所概略図

